

産む力・生まれる力を大切にしたい

伊藤也は今回、沖縄県助産師会が立ち上げた助産所「母子未来センター」を訪ね、施設や活動の様子、立ち上げまでのいきさつや課題、今後について、同会会長の桑江喜代子さん、スタッフの助産師、宮里直美さんに伺いました。



母子未来センターで生まれた生後5カ月の赤ちゃんと母親、スタッフ

沖縄県が助産師活動に期待し誕生した「母子未来センター」。

伊藤 木のぬくもりを感じられる、豊かで暖かな自宅のリビングのような空間ですね。
桑江 ありがとうございます。感からは小学校の校庭が見えて、賑やかな声が聞こえますよ。
伊藤 いいですね。暮らしの中にある施設という感じですね。比較的新しい建物のように思えますが、開設されたのはいつですか？

桑江 平成25年2月11日に落成し、運営は4月からです。これまでに9人の方がここで出産をされていて、いまも10人の妊婦さんが、お産に向けて準備をしています（1月下旬時点）。

伊藤 何人ぐらいのスタッフで運営されているのでしょうか？

桑江 常勤の助産師が2名、パートが2名、嘱託の契約助産師が5名います。嘱託の助産師には、委託を受けている沖縄市とうるま市の新生児訪問にも行ってもらっています。

伊藤 僕は、複数の助産師の目や十分なケアがあるところで、産婦人科医師と連携して、リスクの少ない正常分娩をする。という意味で、ここは現在

お産の在り方も一つじゃなく
いろんな選択肢があってもいい。
温かで自由なお産、正常な分娩には
助産師が主体的に関わるべきだと思う。

広い廊下の右手には診察室、母乳外来室、面談室などがある

伊藤 どんな問題ですか？
桑江 沖縄県の場合、産婦人科医は比較的充実しているのですが、都市部への集中化や高齢化の影響で、地域の産婦人科は、少しずつ閉院しています。沖縄県は離島県ですから、離島に住む妊婦さんたちが、妊健健診を島で受けられないという問題が出てきたのです。伊藤 そうすると、本島に出て、健診を受けるしかないですね。
桑江 そうなんです。でも、健診の費用と運航費は助成されるけれど、滞在費は自費です。妊婦さんが船や飛行機で本島に来るのは、とても危険です。こんな妊婦もあって、産婦人科医のいない離島から、「助産師を」という要望があったんです。それで、助産師会

の活動に県が目直し、拠点となる母子未来センターの設立が叶いました。今年度は、南大東島に4回の巡回妊健健診が委託されました。

医師の指示待ちではなく地域の助産師として活動を

伊藤 沖縄県全体の出産事情についても教えてください。
桑江 10代の出産が全国平均の約2倍あり、予期しない妊娠、授かり婚の割合が高いですね。離婚率も乳幼児虐待、育児不安も年々増加しています。おばあちゃん世代も若く、現役で働いているので、孫の世話をするのも難しくなっています。核家族化も進んでいるので、産後ケアも含め、助産師の必要性はとて大きいんです。

伊藤 助産所は多いのですか？
桑江 それが、以前はけっこう助産所があり、地域のなかで活躍していたのですが、昭和40年代を境に減っていき、病院で出産するケースが増え、有床助産所はここ以外1件しかありません。当然ながら、助産師のほとんどが医療機関で勤務しています。

伊藤 桑江さんも、以前は病院にお勤めされていたんですね。
桑江 沖縄市内の月100例のお産が

ある産婦人科病院に25年間勤めました。伊藤 なぜ、母子未来センターの立ち上げに関わられたのでしょうか？
桑江 病院では、助産師として医師と共同で母子の安全安心のケアをしてきました。しかし、妊娠中から分娩・産後の継続的サポートを行うには時間制

Profile

会長
桑江 喜代子さん
(社) 沖縄県助産師会会長、母子未来センター-管理者、昭和47年、都立筑地産院助産師、昭和50年~60年沖縄県立看護学校教諭、昭和61年~平成23年上村病院看護部長、平成22年~沖縄県助産師会会長。

助産師
宮里 直美さん
(社) 沖縄県助産師会母子未来センター-助産師、昭和62年~平成元年中経病院小児科病棟、平成3年~平成16年民間病院産婦人科、平成21年~平成24年公立久米島病院、平成25年~母子未来センター。

女性が「母」となるとき
胸に抱くのは喜びだけではない。
育児の不安を、やりがいに変える
「産後ケア」の充実を期待したい。



胎児の心音を確認しつつ、妊婦さんの足をマッサージする宮里さん

伊藤 単純に逮捕だなんて、完全に間違った思い込みです。そういう考えを持つ医師がいることに、僕は憤りを覚えますね。宮里さんは本島に戻ってしまっただけですが、久米島は大丈夫なのですか？

伊藤 よい経験をしましたね。
宮里 本島は久米島でお産ができる仕組みを作ったんです。何人かの産婦人科医にも相談したのですが、ある医師からは「何かあれば、逮捕されるかもしれないぞ！」って言われちゃいました。
伊藤 単純に逮捕だなんて、完全に間違った思い込みです。そういう考えを持つ医師がいることに、僕は憤りを覚えますね。宮里さんは本島に戻ってしまっただけですが、久米島は大丈夫なのですか？

伊藤 お互いに役割が違うのだから、共存するのがよいと思うのだけど、妊婦さんの満足度では助産師が高いうデータでも出ています。分娩時に助産師が寄り添い、継続的サポートをすることが、女性の満足度を高めているのだと確信しています。

伊藤 現在助産師が3人いると聞いています。
宮里 はい。立ち会って見て、責任の重さを痛感しました。自分が想像している以上に責任は重いです。でも、その一方で、病院ではお産がゴールだったけれど、ここではお産は子育てのスタートとして関わっていきける。妊娠中から子育ての声かけができますし、皆さん、「子育てが楽しみ、がんばれる」と言っていて自宅に帰られるので、やりがいがあります。
伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。



写真家・医療ジャーナリスト 医療情報研究所代表
患者中心の医療を実現するため 医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中
ホームページ shunya-ho.tv

伊藤 桑江さんはお産の在り方を、どう変えていきたいですか？
一人に1時間かけて妊婦健診 適切な状況判断で安全なお産を



母子未来センターの部屋と外観。自宅のようなぬくもりのある造り

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

伊藤 現在助産師が3人いると聞いています。
宮里 はい。立ち会って見て、責任の重さを痛感しました。自分が想像している以上に責任は重いです。でも、その一方で、病院ではお産がゴールだったけれど、ここではお産は子育てのスタートとして関わっていきける。妊娠中から子育ての声かけができますし、皆さん、「子育てが楽しみ、がんばれる」と言っていて自宅に帰られるので、やりがいがあります。

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

伊藤 桑江さん、センターの課題と今後の展望について教えてください。
桑江 課題は、やはり医師との連携ですね。私が退職した病院の院長（前病院長）は理解があつてセンター設立を後押ししてくれましたが、ほとんどの医師は「沖縄は産科病院が整備され、周産期死亡率も下がってきて母子保健が向上しているのに、なぜ助産所を開設するのか」と言います。

転載・二次使用禁止